

# 全国学生環境ビジネスコンテスト

早稲田大学政治経済学術院 教授 有村俊秀 / 学生団体 em factory

## 【活動背景】

現在、社会で行われている環境活動は数多くある。しかし、それらの活動の中には、「収益性が少ない」「モチベーションが続かない」などの理由から単発で終わってしまう活動も数多く存在する。

「環境活動を巻き込んだ経済・商業システムの構築」と「環境という価値軸をもった人材の育成」が、これからの時代の持続可能な環境活動を行うために必要とされる。弊団体は「環境問題をビジネスという切り口から改善する」ことを理念に掲げ、活動している。

## 【活動内容】

### Stage1での活動



- ・全国学生環境ビジネスコンテスト開催
- ・環境セミナー開催
- ・「企業と環境展」コンテスト共催



## 【成果物】

- ・環境ビジネスプラン (Stage1実施の各コンテストより)
- ・参加学生の意識変化についてのデータ

## 【考察・今後の課題】

### (ア)環境貢献普及活動への有用な切り口

企業による持続性のある環境活動が有用だと理解した学生が非常に多いことが、調査を通じ判明した。ビジネスという切り口をきっかけに環境問題を考え始める、つまり0から1への環境意識変化を可能にする手段として、有効と言える。

### (イ)環境問題意識の平凡化

他の環境学生団体と同様、巻き込み人数の減少が見られたことより、環境問題が新鮮なテーマではなく広く流布したテーマとなったと考察した。今後は、既に環境に関心がある学生だけでなく関心が薄い学生をも巻き込み、社会全体の環境意識を底上げすることが必要である。

## 【Step2実施事項】

- 1.前期に実施したイベントを通じた、学生による環境活動への意識調査
- 2.全国学生環境ビジネスコンテスト開催内容総括冊子を作成、ステークホルダーへの配布、ヒアリング

## 【調査結果】

(意識変化についてのアンケートデータより抜粋)

### ①環境意識の高まり 80%

- ・ビジネスプランを考える上で様々な環境知識を得ることができたから。
- ・今までもあったが、より高まった。

### ②企業が行う環境活動、環境ビジネスへの興味増加 88%

- ・自分が知らないだけでも環境ビジネスに関わる企業は多岐にわたっているとわかったから。
- ・働き出したら、ぜひ取り組みたい。

### ③環境ビジネスで環境問題は解決できると思うか 76%

- ・現状では難しさもあるが、その可能性は大きいと思った。
- ・解決とは言えなくとも、消費社会への対応には環境ビジネスの観点が欠かせないと思います。

### (ウ)学生間における「環境」の定義の変化

環境問題を自然環境における問題にとどまらず、人類の生きる社会環境を取り巻く問題として捉える学生が非常に多いと推測できた。世間でのニーズに応え、他分野と関連するより広い視野での環境問題へのアプローチを行う必要がある。